Event イベント

山口お宝展 オープニングセレモニー

A 旧山口藩庁門

2.27（土）10:00～10:30

式典及びテープカットと併せ、開門した旧山口藩庁門から鋳銭司を目指すウォーキングがスタート。山口維新キャラバン隊による歴史パフォーマンスも披露されます。

大村益次郎・石州街道 ウォーキングツアー

A 旧山口藩庁門

2.27（土）10:30～14:00

旧山口藩庁門から大村益次郎の生誕地、鋳銭司を目指し、石州街道を巡ります。

講演会 「山口移鎮と戦費の調達」

B 山口市菜香亭

2.27（土）18:30～20:15（開場 18:00）

講　師：田中誠二（毛利博物館館長、山口県地方史学会会長、山口大学名誉教授）
申 込 先：山口市菜香亭 TEL 083-934-3312
定　員：70名（電話で要申込）
参 加 費：200円（資料代として）

山口移鎮、そして、攘夷戦争から四境戦争を経て戊辰戦争までの莫大な戦費を長州藩はいかにして工面したか。苦しい台所事情をどう乗り切ったか。藩の知恵と工夫を紹介します。必聴です。

桜咲く山口の街並を着物で歩こう！

B 山口市菜香亭

3.19（土）～3.27（日）
9:00～15:00

申 込 先：山口市菜香亭 TEL 083-934-3312
　　体験前日の午前までに要予約
料金（春の特別価格）：
2時間未満 2,000円、2時間以上 2,700円

幕末志士の衣装を揃えました！

料金：2時間未満 3,000円、2時間以上 3,700円
（各々内、50円を復興支援金とします。）

一の坂川花見運行～桜並木を人力車で駆け抜けよう

B 山口市菜香亭

3.26（土）・27（日）・4.2（土）・3（日）
各日10:00～16:00

料金：大人1名800円、2名1,500円
　　小人（小学生・幼児）1名500円
（売上の一部を復興支援金とします。）
待機場所：一の坂川多目的広場
コース：亀山橋⇔琴水橋

チームOIDEMASE企画 東日本復興支援イベント 桜めぐり＆お茶めぐり

a C・S赤れん が（ロビー）

3.26（土）～4.10（日）9:00～17:00

料金：300円（内、50円を復興支援金とします。）
★コーヒー or 紅茶（お菓子付）

b 山口ふるさと伝承総合センターみやび館

3.27（日）10:00～16:00

料金：400円（内、50円を復興支援金とします。）
★煎茶（柴山流）茶席

C 山口市菜香亭 大広間

3.27（日）10:00～16:00

料金：500円（大広間観覧料を含む）
（売上の一部を復興支援金とします。）
★抹茶（大日本茶道学会山口支部）

維新策源地ウォーク

C 国宝瑠璃光寺五重塔

2016年3月までの土・日・祝日
（年末年始は除く）

集合時間／13:00
最少催行人数／2名
料金／お1人様500円（語り部ガイド料）
行程／約5km（約3時間）

1863（文久3）年、萩から藩庁が移鎮してきた山口には、政事堂や藩の教育機関などとともに、多くの志士たちが各地から集まり、抗幕に向けて密議を交わし、力をつけていきました。
そのことから、山口は明治維新を支えた"策源地"と言われるようになりました。このツアーでは、語り部と一緒に「維新策源地やまぐち」を歩きます。

国宝瑠璃光寺五重塔 → 枕流亭・露山堂 → 洞春寺 → 旧山口藩庁門 → パークロード → 山口明倫館兵学寮跡・山口御茶屋跡 → 十朋亭 → 光合寺 → 清末藩長屋門 → 錦の御旗製作所跡 → 国宝瑠璃光寺五重塔

予約先
（一財）山口観光コンベンション協会
TEL 083-933-0088
（9:00～17:30 休／土日祝）

維新deコスプレ

D 大路ロビー

利用時間：午前10時～午後5時
　　火曜日休館（祝日の場合は翌平日）
利用料金：30分　200円
　　2時間　500円

幕末志士のコスプレ衣装をレンタルして、街並をおさんぽしませんか。服の上から着られる簡単な着物風衣装です。久坂玄瑞風甲冑や、高杉晋作風の羽織はかま、こども用もあります。

小林秀雄宛献呈署名入り 中原中也訳詩集『ランボオ詩抄』

初公開

中原中也翻訳詩原稿「酔ひどれ船」（ランボー）

展示期間 2.27（土）～ 3.13（日）

小林秀雄宛献呈署名入り 中原中也詩集『山羊の歌』

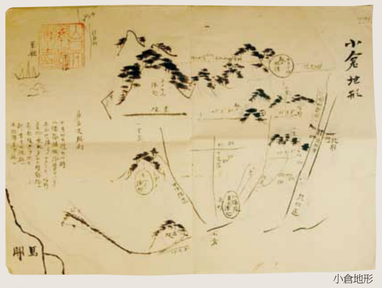
展示期間 3.15（火）～ 4.3（日）

E 中原中也記念館

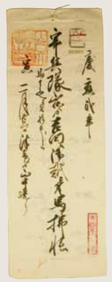
2.27（土）～4.3（日）9:00～17:00
月曜休館（祝日の場合は翌日）、毎月最終火曜日

評論家・小林秀雄（1902-1983）のご遺族により発見され、当館が受贈した小林宛献呈署名入り中原中也訳詩集『ランボオ詩抄』を、この度山口お宝展で初公開します。
小林と中也の交友を物語る上ではもちろん、比較的数が少ない『ランボオ詩抄』の署名本であるという意味でも重要な1冊です。
文庫本に毛筆で几帳面に書かれた署名は一見の価値あり。約80年前に中也から小林の手に渡った、世界に二つと無い本物の魅力を、ぜひ間近で体感してください。

Exhibition お宝展示



小倉地形



奇兵隊山口より吉田江御越ニ付馬払帳

上郷・林家文書
小倉地形
装条銃御買入代金上納差引仕詰帳 初公開
御願申上候事［御時勢ニ付短装条銃御筒買入代銀献納ニ付］

嘉川村本間家文書
軍艦御買入ニ付嘉川村方奮起献納銀仕出帳 初公開
奇兵隊山口方吉田江御越ニ付馬払帳 初公開
覚［小倉行人夫小遣ひ請取の事］初公開

F 山口大学埋蔵文化財資料館

2.27（土）～4.22（金）9:00～17:00 土・日・祝日休館（山口お宝展期間の土曜は開館）

「小倉地形」
上郷・林家文書のうち、四境戦争における小倉口の戦いの諸隊（奇兵隊・八幡隊など）陣所、敵軍の台場などの配置図を描いたもの。「身（味）方大勝利」の慶応2年10月4日の呼野台場攻略に関する戦況も記載されています。

「奇兵隊山口より吉田江御越ニ付馬払帳」
嘉川村本間家文書のうち、慶応2年2月23日、奇兵隊が山口を発ち吉田に向かう際、小郡津市から船木宰判との境である山中まで諸荷物を送る人馬を差し出した際の嘉川村の記録。奇兵隊がまさに四境戦争小倉口の戦いに赴こうとしていた時の記録です。

以上のほか、四境戦争から150年を記念して、山口大学図書館所蔵の近世庶民史料から、「四境戦争を支えた村人たち」をテーマとして、関係史料を展観します。

藩府申渡書

藩府申渡書（松陰江戸拘送の事）（県指定有形文化財）
杉百合之助育吉田寅次郎公儀御吟味有之江戸連出一件
吉田寅次郎御吟味有之江戸御呼登一件

G 山口県文書館

2.27（土）～3.30（水）9:00～17:00 月曜休館★期間によって展示品が異なるのでご了承ください。

幕府が朝廷の許しを得ずに日米修好通商条約に調印したことを知った吉田松陰は、幕府への批判を強め、安政の大獄により江戸へ送られ処刑されました。
山口県文書館蔵の毛利家文庫の中に、松陰が江戸へ送られる際に萩藩側で作成された記録が伝わっています。これらの記録から、松陰を護送する一行は、護送の責任者河野尚人をはじめ総勢32名（松陰を除く）の大人数であり、しかも彼らは「随分達者健成者」「別而巧者」などと記される選りすぐりの者達であったことがうかがえます。萩藩がこのような編成をとったのは、「囚人」松陰が道中で逃走することや「寅次郎党類」による「不穏な儀」を恐れたためでした。
一行は、安政6年（1859）5月24日に萩を出立し、6月25日、無事に萩藩江戸藩邸に到着しています。今回は、主に萩藩側に残された記録から、「囚人」松陰の江戸護送がどのように行われたかを紹介します。

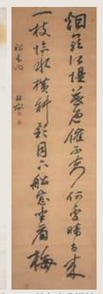
花岡鉱山鉱石、小坂鉱山鉱石、日立鉱山鉱石

F 山口大学埋蔵文化財資料館

2.27（土）～4.22（金）9:00～17:00 土・日・祝日休館（山口お宝展期間の土曜は開館）

「明治維新期の鉱山開発と産業資本～萩出身の3人の実業家と井上馨～」をテーマとし、井上馨と深い関係のあった萩出身の3人の実業家、藤田伝三郎・久原房之助・鮎川義介が興した旧財閥の主要事業は、花岡・小坂および日立鉱山の経営にありました。これらの鉱石について展示・解説することにより、明治維新期の鉱山開発と産業資本形成の一端を紹介します。

鳥尾小弥太の掛軸



林友幸の掛軸

鳥尾小弥太の掛軸（書）
展示期間 2.27（土）～ 3.31（木）

林友幸の掛軸（書）
展示期間 4.1（金）～ 5.8（日）

B 山口市菜香亭

2.27（土）～4.3（日）
9:00～17:00 毎週火曜休館

観覧料：大人100円、小人50円（含大広間観覧）

企画展「四境戦争の策源地・山口」（期間：2月27日～ 5月8日）に併せて、奇兵隊で四境戦争に参加した志士の書を展示します。

寺内親子元帥の元帥刀
（柄と刀身を正規に取り付け初の展示）

総刺繍の朝鮮屏風、馬関戦争時の英国軍・長州軍砲弾

H 防長尚武館

2.27（土）～4.3（日）
9:00～17:00 毎週火曜休館（3/5休館）

「馬関戦争時の長州砲砲弾と英国軍砲弾」
1864年8月、尊王攘夷を掲げる長州藩は、下関において四国（イギリス、フランス、アメリカ、オランダ）連合艦隊の大規模な砲撃を受け惨敗し、開国、尊王倒幕論へと大転回し、明治維新へとつき進んでいきました。

久坂玄瑞 常用湯呑

D 大路ロビー

2.27（土）～4.3（日）10:00～17:00
毎週火曜休館（火曜が祝日の場合は4の翌日）

山口市十朋亭に大切に保管されていた久坂玄瑞常用湯呑を展示。幕末に京都と山口を行き来していた久坂が、京都で求め山口へ持ち帰ったのだろうといわれています。

企画展「幕末明治の偉人たちの書 ―詩と酒で語らう―」
木戸孝允書掛軸
粟田焼酒器（伊藤博文より萬代家に贈られたもの）

I 山口市歴史民俗資料館

2.11（木・祝）～3.27（日）
9:00～17:00（入館は16時30分まで）
月曜休館（祝・休日は開館、翌日休館）

幕末明治期に活躍した偉人達は、漢学の教育を受けて育ち、数多くの「詩」を遺しました。そして、古来から詩とかかわりの深い「酒」に関する逸話も多く伝えています。本企画展では、偉人たちと「詩と酒」の関係にスポットを当て、大村益次郎や木戸孝允、井上馨や伊藤博文らの書を中心に展示します。

『改正増補 英和対訳袖珍辞書』
（慶応3年・1867年）

J 山口県立山口図書館

2.27（土）～3.30（水）9:00 ～ 19:00
（こどもとしょしつ及び土・日・祝は17時まで）
毎週月曜日休館

文久2年（1862年）、幕府の洋書調所（開成所の前身）の堀達之助等が編纂した『英和対訳袖珍辞書』をもとに、堀越亀之助等が補訂を加え再版した『改正増補　英和対訳袖珍辞書』（慶応3年）を展示します。『英和対訳袖珍辞書』は日刊行された日本最初の英和辞書として需要も多く、文久2年の発行後、慶応2年（1866年）、慶応3年、明治2年（1869年）と再版されました。

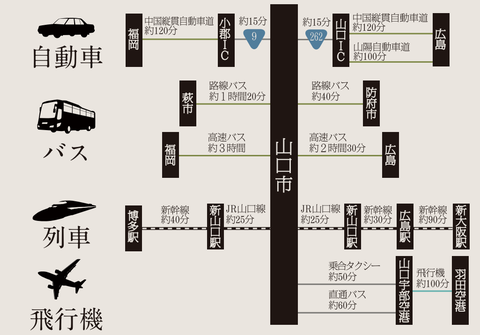
久坂deカフェ

D 大路ロビー

問い合せ：TEL 083-920-9220　利用時間：店舗による
十朋亭（萬代家）に伝わる「久坂玄瑞常用湯呑」のレプリカを使った特別メニューを味わえます。

■ 参加店舗
1 お食事処一水
2 オーカルチェラタン
3 カフェ＆ギャラリー　ラセーヌ
4 一の坂川のブックカフェ Jasmine.
5 茶房おかだ
6 長州宛福璃光寺支店（香山）

Access アクセス



タクシー

大隅（おおすみ）タクシー	TEL 083-922-0860
いさむや第一交通	TEL 0120-39-1368
中司タクシー	TEL 083-922-0812
スミスハイヤー	TEL 083-922-1881
湯田都タクシー	TEL 083-922-0232
山野タクシー・山口交通	TEL 0120-501-940
フラワータクシー	TEL 083-928-2878

主催　山口商工会議所　明治維新150年記念事業実行委員会　後援　山口市 山口市教育委員会
問い合わせ　山口商工会議所 TEL 083-925-2300　http://otakaraten.com/

History 歴史年表

ジャスト150年前

1804 元治元年
- 7月19日 禁門の変
- 7月23日 「第一次長州征伐」の勅命が下る。
- 8月1日 幕府征討令を発す。
- 8月5日 英米仏蘭の四カ国連合艦隊が下関を砲撃、長州軍敗北。講和談判はじまる。
- 8月8日 井上馨、幕閣へ書簡。
- 9月8日 幕府の出兵令。
- 9月25日 幕府、諸藩へ動員令。
- 9月下旬 保守派（俗論派）が政権掌握。毛利父子・萩に擁せられる。
- 10月3・4日 政事堂も萩城内へ復帰。
- 10月16日 山口新御屋形（山口城）竣工。
- 10月21日 諸隊に対し解散令を出す。
- 10月23日 征軍総督・尾張藩徳川慶勝、広島に着陣。
- 11月11・12日 征軍防長二州へ迫る。
- 12月15日 高杉晋作 功山寺にて決起。
- 12月上旬 山口新御屋形（山口城）および諸門門を破却。

1865 慶応元年
- 1月6日 薩摩で大田・黒岩の戦、万寿寺の戦、万寿寺の戦。
- 1月28日 薩摩で、藤井・園田の三家老の処分を言い渡し。
- 2月27日 敬親を出て、戦線を巡覧し、湯田に泊す（28日）。
- 3月 再び山口に中河原御茶屋に入る。
- 3月13日 薩摩で「武備恭順」に決す。
- 4月8日 山口新御屋形（山口城）の破損所修築（慶応の修築）と山口諸口の関門再建を令す。
- 4月12日 幕府長州再征を令す。
- 5月23日 文武興隆・兵制改革を令す（慶応の第2の改革）。
- 閏5月28日 保守派（俗論派）の粛清が始まる。
- 6月9日～ 対幕府応戦のため兵制改革。
- 9月21日 萩近、幕府の長州再征を許す。
- 幕府彦根藩以下31藩に出兵を命ず。

1866 慶応2年
- 1月21日 「薩長同盟」なる。
- 4月20日 長州藩、第二次征討令。
- 4月27日 敬親、幕府の長州再征を正式に通告を発す。
- 5月15日 山口新御屋形（山口城）の第一次修築がなり、敬親、初入城。
- 6月 第二次征長の役（四境戦争）はじまる。
- 7月18日 石見口より幕府軍の進撃を開始、浜田城を攻撃。
- 7月20日 大島口より幕府軍の進撃を開始、大島口の戦い。
- 8月1日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月2日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月6日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月7日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月8日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月9日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月10日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月11日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月12日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月13日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月14日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月15日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月16日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月17日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月18日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月19日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月20日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 8月21日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 9月2日 幕府軍、小倉城を攻撃。
- 9月21日 幕府軍、小倉城を攻撃。

1867 慶応3年
- 12月9日 大政奉還。
- 12月10日 討幕の密勅を下す。
- 10月14日 討幕挙兵発令。
- 8月6日 「ええじゃないか」起こる。
- 4月4日 長州藩主父子の官位を許し、官職の返還を令す。
- 4月 四侯会議。

1868 明治元年
- 9月8日 明治と改元。
- 3月 江戸開城。
- 1月 鳥羽・伏見の戦い。戊辰戦争始まる。

慶応2年合戦之取合図（浜田市立浜田図書館蔵）　絵図左下に、石州口の浜田城が炎上している様子が描かれている。

大村益次郎
村田蔵六

1824～1869

山口市鋳銭司出身。日田の咸宜園で漢学を、大坂の適塾で蘭学を学ぶ。宇和島藩や幕府講武所に出仕し、蘭学・兵学を教授。1860（万延元）年萩藩に抱えられる。後に軍務掛を任じ、改革を推進。新政府では兵部大輔。近代国家の軍隊創設に尽力するが、凶刃に倒れる。

高杉晋作

1839～1867

松下村塾に学ぶ。1863（文久3）年奇兵隊を創設。翌年の四国連合艦隊との講和交渉では正使を任じた。第一次幕長戦争後、藩論を討幕に導き、第二次幕長戦争では大島口や小倉口において戦ったが、病が進み、新時代の到来を待たず闘争で死去。

石川小五郎
河瀬安四郎・河瀬真孝

1840～1919

山口市佐山出身。戦死した来島又兵衛の跡を継ぎ遊撃隊総督、高杉の下関挙兵に遊撃隊を率いて参加、四境ノ役では芸州口に戦う。慶応3年英国留学。帰国後工部少輔・骨皮長・議定官・枢密院顧問官などを歴任した。

The Treasure of Exhibition
YAMAGUCHI Times
1866 四 2016

明治維新から数えて150年という記念すべき2018年に向け、明治維新の策源地となった山口では、ゆかりの建造物やお宝を一挙公開。志士たちのパワーを体感できる「山口お宝展」、いよいよ開幕です。

山口お宝展

2016年2/27（土）～4/3（日）　大殿・白石・湯田地区周辺

Feature 連載 山口新御屋形 四

第二次幕長戦争とは

幕府側では「長州征伐」・「征長の役」、
長州側では「四境ノ役」・「四境戦争」である。

元治元年7月23日、「第一次長州征伐」の勅命が下り、幕府は征長軍を編成。

発端は元治元年7月の禁門の変にある。御所を攻める形となった長州藩には追討の勅命が発せられ、これをうけて幕府は征長令を出したのである（8月1日）。時に長州では四カ国艦隊の報復があり、征長軍の出兵が迫る中で藩論が対立して、保守派（俗論派）が政権を掌握した。毛利敬親父子は萩に退き、三家老の首級を差出した上で、山口城の破却など降伏の三条件を受け入れた。征長軍はその実行を確認した上で撤兵した。保守派政権が恭順謝罪を藩是とし、藩の存続をはかったのが第一次幕長戦争の結末であった。
それに異を唱えて挙兵したのが高杉晋作である。解散令を受けていた正義派の諸隊も呼応し、「大田・絵堂の内訌戦」に勝利して政権を奪回した（慶応元年正月）。藩府は再び山口に移り、藩是は武備恭順に転換した（3月23日）。

慶応元年4月8日、毛利敬親、山口新御屋形の破損所修築を令す。12日、幕府は長州再征を令す。

このような状況に、幕府は「長州再征令」を発し（慶応元年4月）、将軍自ら江戸を進発した（5月）。対する長州側では、4月以降、山口城・諸関門等の修改築に着手（慶応2年5月修築完了、藩主入城）、軍制や兵制の大改革を進め、新式兵器の購入などで対応した。大村益次郎が中心となって推進したいわゆる慶応の軍制改革である。外交面でも薩長盟約がなり、幕府側との交渉も長州ペースで翻弄、結果として慶応2年第二次幕長戦争に発展した。長州側でいう四境ノ役とは、大島口（6月7日開戦～6月19日終息）・芸州口（6月14日小瀬川口開戦～8月7日征長軍広島へ撤退）・石州口（6月16日開戦～7月18日浜田城自焼、7月20日大森代官逃亡で終息）・小倉口（6月17日開戦～8月1日小倉城自焼退去・九州諸藩撤兵へ）の戦闘を総称している。

大村益次郎の兵制改革では、大隊編制と散兵戦術を採用。長州側の勝利は藩論体制が崩壊に直結した。

将軍病死を理由に、休戦協定は広沢真臣・井上馨（長州側）・勝海舟（幕府側）らが宮島に会合して締結され（9月2日）、征長軍は解兵したが（9月4日）、小倉藩との休戦が成立したのは翌慶応3年1月23日であった。

これら一連の戦闘において注目されるのは、長州側の優れた作戦計画と、それを実践する指揮官の存在である。石州口の戦闘を完勝に導いた大村益次郎、大島口の幕府艦奇襲や、小倉口の作戦に関与した高杉晋作、芸州口で大きな役割を果たした遊撃隊の河瀬安四郎（河瀬真孝→石川小五郎と改名）らがあげられよう。

第二次幕長戦争を総括すれば、幕府の権威が失墜し、幕藩体制の崩壊に直結したことであった。

解説文／桑原邦彦